

2026 年 2 月 吉日

J-ASPECT Study 協力施設

病院長殿

脳神経外科科長殿・脳卒中診療科科長殿・脳血管内治療科科長殿

研究代表者
国立循環器病研究センター
循環器病対策情報センター長
飯原 弘二

脳卒中を含む循環器病対策の評価指標に基づく急性期医療体制の構築に関する研究

「Close The Gap - Stroke」へのご協力をお願い

拝啓

時下、先生におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

J-ASPECT Study（厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業、日本医療研究開発機構（AMED）研究事業等）におきましては、平素よりご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

超高齢社会の到来に伴い、医療・介護に依存せず生きられる健康寿命の延伸が最重要課題となっています。脳卒中においては急性期医療の均てん化が重要であり、各地域の実情に応じて急性期脳卒中の医療提供体制を至適化することが喫緊の課題となっております。医療技術の進歩やエビデンスの蓄積が目覚ましいスピードで進む中、欧米では医療の質を、標準的な手法によって策定した指標（QI=Quality Indicator）を用いて、Evidence Practice Gap（良質なエビデンスに裏打ちされたアウトカム向上に繋がり得る診療行為と、実際の臨床で行われる診療行為とのギャップ）を評価し、継続的に医療の質を高める活動が行われています。

我が国では最新の脳卒中医療の質を継続的に計測することに特化した、悉皆性の高い統一的なデータベースが存在しないのが現状です。欧米では、このようなデータベースを活用して、脳卒中医療の質を継続的にモニターする（Get With The Guideline Stroke®など）とともに、脳卒中センターの認証も行っています。一方、急性期脳梗塞に対する血栓回収療法が標準的な医療となった現在、本邦の実情に応じた脳卒中センターの認証が喫緊の課題となってきました。

こうした状況を受け、この度当研究班では、Evidence Practice Gapを埋めるため「Close The Gap - Stroke」（以下、CTGS）と名付けた急性期脳卒中の医療の質評価プログラムを実施する運びとなりました。CTGSでは、当研究班で過去に蓄積したDPCデータを活用して、協力施設の負担を最小限に抑えつつ症例登録を行うことが可能なシステムを新たに開発いたしました。当該システムを用いて症例登録を行い、急性期脳卒中診療提供体制、特に脳卒中センターの医療の質の評価に活用可能なQIを継続的に算出することで、Evidence Practice Gapを埋めることをプログラムの目的とします。なお、本研究で計測する指標は、AMED先行研究「脳卒中を含む循環器病対策の評価指標に関する研究」班（研究代表者 飯原弘二）において、本邦の実情に応じた脳卒中センターの認証に対応する項目として、QI作成手法の世界標準であるUCLA/RAND法に則り策定いたしました。

今回 CTGS の実施は 5 度目となり、前回と同様に急性期脳梗塞に対して t-PA 静注療法、血栓回収療法を施行した症例のみを対象とした登録を計画いたしました。今回の調査対象となる症例は、2022 年 4 月～2024 年 3 月の間に退院した症例¹で、症例数は 1 施設あたり約 52 症例（中央値は 39 症例）になります。

CTGS で協力施設にご提供するシステムには、過去にご提出いただいた DPC データから脳卒中症例の主要な情報が抽出されてプリセットされておりますので、協力施設では DPC データから取得不能な項目を、1 症例につき最大十数項目追加でご入力いただくのみとなります。なお、ご協力いただいた場合は、算出した QI を、欧米各国における脳卒中センターの認証に報告された基準、本研究に登録された全国レベルと貴施設とで比較し、今後の貴施設における急性期脳卒中の医療の質の向上にご活用いただけるようなデータのフィードバックを行う予定でございます。

貴施設におかれましては、過去に当研究班に DPC データをご提供いただいております。ご多忙とは存じますが、本研究の脳卒中救急診療ならびに関連する脳神経外科診療におけます意義等をご斟酌いただきまして、是非とも第 5 回「**Close The Gap - Stroke**」にご協力賜りたく、重ねてお願い申し上げます。

ご協力いただきました貴重なデータにつきましては、国立循環器病研究センター循環器病統合情報センターにおいて厳格に保管・管理いたしますとともに、目的外使用をしないことをお約束申し上げます。

ご協力の可否につきましては、下記の方法でご登録いただきたくお願い申し上げます。

敬具

¹ 研究計画書および患者さん向けオプアウト資料においては、2013 年 1 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日退院分までとなっておりますが、今回の対象は 2022 年 4 月以降の 2 年分のみです。

第 5 回 CTGS 参加意向登録方法

Close The Gap - Stroke (CTGS) への参加・不参加のご意向は、下記 URL より ID、パスワードをご入力いただきログインの上、必要事項をご記入の上ご登録をお願い申し上げます。

ホームページ URL : <https://j-aspect.jp/ctgs.php>

パスワード : [下記事務局メールアドレスへお問い合わせください](#) (※)

※ 上記 URL に掲載している倫理審査関係書類一式[Zip]のパスワードも同じです。

<<CTGS 実施スケジュール>>

参加登録期間 : 2026 年 2 月 9 日～2026 年 3 月 6 日

プリセットデータ配布 : 協力のご意向をいただいた後、1 週間程度で配布いたします。

データ提出期間 : プリセットデータ配布後 1 か月程度

(協力施設様の状況に応じて柔軟に対応いたします。)

※上記の参加登録期間、データ提出期間等は都合により変更する場合がございます。

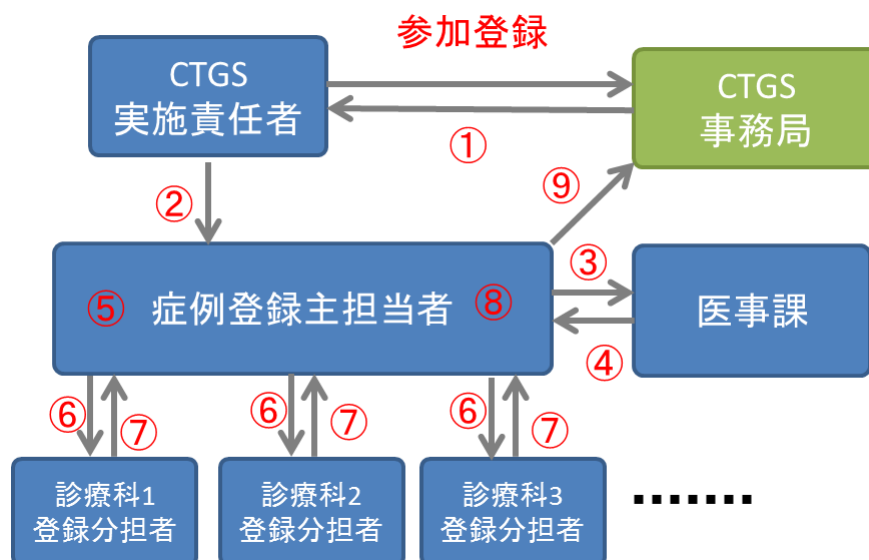
CTGS のための症例登録データをご提出いただくにあたり、院内の倫理審査等が必要になる場合がございます(必要か否かは各施設様の規定によります)。

倫理審査委員会の承認が必要な場合は、参加登録と同時に申請手続きをしていただきますようお願い申し上げます。

なお、参加をご検討いただける場合は、事前に参加のご登録のみは済ませていただければ幸甚です。貴院における倫理審査の結果、参加ができなくなった場合には、その旨事務局へご連絡いただければご登録を「不参加」に変更いたします。

ご連絡・お問合せ先 : 研究事務局メールアドレス : j-aspect@ml.ncvc.go.jp

データ提出までの流れ（参加登録以降）



- ① 研究事務局から、参加登録時に CTGS 実施責任者として登録された方に Close The Gap - Stroke 症例登録用ツールのダウンロードサイトに関するご案内とプリセットデータ、データ提出用 CD-R などを郵送いたします。
- ② CTGS 実施責任者は、症例登録主担当者²を定め、CTGS 事務局から郵送されたご案内や CD-R 等を症例登録主担当者に渡します。
- ③ ～④ 症例登録主担当者は、マニュアルに沿ってプリセットデータを読み込んだ上で、医事課等と連携の下で DPC データ用の ID（データ識別番号）と院内 ID 等の対応表³、診療科マスタなどの読み込みを行います。
- ⑤ 症例登録主担当者は、ツール上で症例登録を行います（以下、⑥～⑧の手順は、登録する症例が多くて作業を分担したい、診療科ごとに登録作業を分担したいなど場合にのみ実施してください）。
- ⑥ ～⑦ 症例登録主担当者は、登録すべき症例に関する情報の収集を登録分担者に依頼し、各登録分担者が収集した情報を登録します⁴。
- ⑧ 症例登録主担当者は、各登録分担者が収集した情報の入力もしくは登録済みデータのマージを行います。
- ⑨ 症例登録主担当者は提出用データを作成し、事務局より配布した CD-R に保存して、J-ASPECT Study 研究班 CTGS 事務局の住所に郵送します。

² 診療情報管理士、医事課職員などを想定しています。CTGS 実施責任者が兼ねることも可能です。

³ 症例登録をスムーズに進めるためにカルテ番号、氏名等の対応表を読み込むと画面に表示できます（任意）。CTGS 事務局に提出するデータには出力されません。

⁴ 症例登録主担当者が CTGS のツールから紙に出力した帳票に登録分担者が書き込んで、それを症例登録主担当者が CTGS のツールに入力する方法と、CTGS のツールから登録分担者用に出力したファイルを登録分担者が CTGS のツール上で入力する方法の 2 通りがあります。